

1 単元名 ネット型ボールゲーム 「テニピン」

2 単元の目標

- ・ボールを打つ基本的技能を向上させるとともに、状況によって打つ強さを変えたり、ねらったところへボールを打ったりすることができる。(知識及び技能)
- ・より得点するための攻撃の方法や守備について考え、伝え合うことができる。(思考力・判断力・表現力)
- ・積極的にボールに関わろうとしたり、話し合いで自分の気づいたことを伝えようとしていたりしている。(主体的に取り組む態度)

3 単元指導計画

時間	1	2	3	4	5	6	7	8
ねらい	テニピンについて知り、意欲をもつ。	試しのゲームを通して、自分たちの課題やうまくなりたいことを見つける。	得点するために、状況によって打つ強さを変えたり、ねらったところに打ったりする練習をする。		より得点するためにはどうすればよいかペアで考え、ゲームに生かす。			練習で身につけたことをテニピン大会に生かす。
学習活動	オリエンテーション 1 教師によるテニピンの実演を見る。 2 単元の見通しをもつ 3 簡単なゲームを通して運動への意欲をもつ	1 用具の準備 準備運動 2 ゲーム (2回) 3 個人やチームの課題・うまくなりたいことについて話し合う。 4 振り返り 片付け	1 用具の準備 準備運動 2 本時のねらいの確認 3 個人・ペア練習 ・状況によって打つ強さを変える練習 ・ねらったところへ打ち分ける練習 4 ゲーム① 5 作戦会議 6 ゲーム② 7 振り返り・片付け		1 用具の準備 準備運動 2 個人ペア練習 3 本時の狙いの確認 ・ペアで交互に打ちやすいようにフォーメーションを考える。 ・フォーメーションを意識しつつ、打つ強さを変えたり、ねらったところへ打ったりする練習を繰り返す。 4 ゲーム① 5 作戦会議 ゲームでの課題を話し合う 6 ゲーム② 5 振り返り・片付け			1 用具の準備 準備運動 2 ペアの目標を話し合う 3 作戦の話し合いや練習 4 ゲーム① 5 自分たちの動きを振り返り、作戦を立て直す 6 ゲーム② 7 振り返り・片付け

4 授業の実際

【視点①】**なりたい姿をイメージし、自他の課題や変容の自覚を促す「単元構成と授業構成」の追求**

○オリエンテーションでは教師による実演を見ながら、5年生になった自分たちがどのようなプレーをしたいのか話し合った。一昨年前の3年生の頃は、児童の実態や学年の発達段階から、いかにラリーが続くかを目標に取り組んでいる。5年生ではもっと上手になりたい気持ちを持ち、ラリーの中で得点をたくさん取りたいと意気込む様子が見られた。

○子どもたちと、「たまたま返せて取れた得点」ではなく、「ねらった得点」を取れるようになろうという単元の目標をもって取り組んだ。3年生の頃の経験を生かして、打ち上げゲームや的当てゲーム、ドロップゲームやラリーゲームなどの簡単なゲームに取り組む場の設定をした。

【視点②】**なりたい姿に向かう「基礎感覚や基本技能を高めていくための手立て」の追求**

○「ねらった得点」を取るためには、相手コートの方がねらったところへボールを打つ技能が求められる。なんとなく返せたではなく「左後方をねらおう」と思ったら、そこへ返すことができたという感覚を感じながら学習に取り組んでほしいと伝えた。そこで、ペアでの練習の際に「前後のねらい」というメニューを用意し、相手の位置を見てコートの前方に落としたり、後方にロブを打ったりする判断ができるようにした。



【視点③】**なりたい姿に近づくための「主体的・対話的で深い学び」の追求**

○教師が課題を提示するのではなく、子どもたちからでた困り感やもっとこうなりたいという思いを大切にしながら単元を進めた。

5 成果○と課題△

○ペアでのラリー練習の機会を設けることで日を追うごとに自分のイメージしたようにラケットで打ち返すことができるようになる児童が増えた。

○練習メニューを工夫することで、ねらったところへ打てるようになっていく自分を実感しながら技能を高めることができた。また、2人ペアで行うという競技の特質から、ペアの友だちがねらったところに打てるようになると、一緒になって喜ぶ姿が多く見られ、仲間とつながりながら高め合うことができていると感じた。



○4時目までのところで、個々の技能は高まったものの、どうしても相手に得点を奪われることが多いという声が上がった。原因を全体で考えたところ「2人のコンビネーションがうまくいっていない」「交互に打つというルールがあるから、同じ人をねらわれたら打ち返せない」という意見がでた。そこで、5時目には2人のフォーメーションを考え試合に生かせるようにした。このように、児童の困り感やもっとこうなりたいという気持ちを拾い、授業の展開に生かしたことは、子どもたちのペアとしての技能や協力しようとする気持ちを高めることにつながったと考えている。

△練習を繰り返したとしても、技能の個人差が見られ「○○さん相手だと無理だな。」とあきらめてしまうような声も聞かれた。子どもと試合のルールを作っていく際に、実力に応じて得点を変えるなどの工夫も必要であると感じた。

△今年度は自校の体育館改修のため、近隣の東出雲体育館での実践となり、授業時間確保やコート設営の難しさが課題だった。体育館の制限がなければ、コートのライン引きが可能となり、場の設定に工夫ができたのではないかと感じた。